

トピック 少女漫画は男性読者が少ない

日本の漫画は多くの国や世代の人々に読まれ、親しまれている。『2007出版指標年報』によると、日本国内で2006年までに出版された単行本の数は10965点であり、漫画雑誌は301点にも及ぶとされている（全国出版協会・出版科学研究所、2007年）。それらの漫画は、対象となる読者の年齢層や性別で分類、ストーリーの趣向で分類、漫画内に使用されるコマ割の数で分類されるなど様々な分類が存在する。その中でも私が着目するのは、少女漫画と少年漫画という、対象となる読者の年齢層や性別での分類である。少年漫画という分類は名前のとおり、少年を対象に漫画が描かれており、『少年ジャンプ』や『少年サンデー』などといった漫画雑誌がその代表である。また、少女漫画は少女を対象にしており、代表の漫画雑誌は『ちゃお』や『花とゆめ』といったものがあげられる。しかし、私はこの分類に疑問を持った。少年漫画と分類された漫画は、少年に限らず男女ともに広い年齢層の人々に手にとられ読まれている。少年漫画の女性読者の数は男性読者にも劣らないと考える。その反面、少女漫画はどうだろうか。私は、少女漫画を購入している男の人は少ないと感じる。実際、弟やイトコといった身近にいる漫画好き男の人を思い返してみても、少女漫画を持っている男の人は一人もいなかった。いったい、少女漫画と少年漫画の違いはなんだろうか。確かに少女漫画は女性向けであるが、少女漫画にも男の人が読んでおもしろいと感じるものがあるはずだ。それなのに、どうして少女漫画は男性読者が少ないのか。このレポートではそれを調べたい。

少女漫画と少年漫画の一般的な大きな違いは、ストーリーと絵柄だと考える。ストーリーの違いの場合、少年漫画で多いのはスポ根漫画やギャグ漫画などがあるが、やはり一番はバトル漫画であり、少女漫画はおもに恋愛だと言える。また、少年漫画の視点の多くは男主人公であるヒーローのものである。そのため、ヒーローの視点を通して私たちは、主人公やその仲間たちが強くなって敵を倒すという、彼

ら登場人物の成長過程を見守ることができる。少年漫画では、不思議な能力が出てきたりして、実際には有り得ない展開が繰り広げられる。その世界は非現実的であると感じる。そのため、私たち読者は多くの少年漫画を現実とは切り離れた空想の世界として話を読むことができる。一方、少女漫画で多い視点は女主人公のヒロインのものであり、彼女の恋愛が描かれている。こんな恋愛有り得ないと思われるが、超能力などが存在する少年漫画と比べると、誰しも体験のできる恋愛を軸にした現実的な話ばかりである。読者はヒロインに感情移入しながら、ヒロインの恋愛を読む。そのため読み終わった後に、このような恋がしたいと余韻に浸るのだろう。私たち読者は多くの少女漫画を自分の理想の世界として話を読むことができる。しかし、理想といっても、主人公が女であるため、男の人が共感できないのは仕方ないことである。これが、男の人が少女漫画を避ける一つの要因であると考えられる。

絵柄の違いの場合、少年漫画の特徴はキャラクター性だと感じる。かっこいい・かわいいと思わせるために工夫されている髪型や服装は、とてもキャラクター性が豊かであり、印象強いものである。たとえば、ジャンプで連載中の大人気漫画である『ONE PIECE』の主人公モンキー・D・ルフィは、特徴がぱっと浮かぶだろう。頭には麦わら帽子、左頬には傷がある。その特徴さえ外さずにルフィを描けば、絵が下手であっても、ほとんどの人はルフィだと気づいてくれるに違いない。同じように『DRAGON BALL』の孫悟空は、髪型が特徴的である。そのため、真っ黒なシルエットだけでも、その髪型から孫悟空だと分かるだろう。このように少年漫画の登場人物たちは、キャラクター性に長けている。それは、ストーリー同様に空想のような姿である。現実とは切り離れているからこそ、かっこいい、かわいいと思われる。一方、少女漫画の絵柄の特徴は、慣れ親しんだ髪型をし、服装を着ている場合が多く、こちらもストーリーと同じで現実的なものである。理想の恋愛ストーリーを展開するにあたって、非現実的なキャラクターよりも現実的なものの方が感情移入しやすいのだと考える。つまり、髪型や服装の特徴が無いというのが、特徴である。絵柄の特徴はそれだけではない。今まで、非現実的と述べてきた少年漫画であるが、リアルなところも存在する。それは、動きと背景である。少年漫画は少女漫画に比べ、キャラクターの動きが良く、背景の描写が精密である。そのため、リアルに近い空想の世界の中で、キャラク

ターたちが生きていると実感することができる。一方少女漫画では、動きよりも大事にしているものがある。それは、登場人物たちの心情描写だと考える。漫画にはモノローグといって、キャラクターたちの心の声が台詞として描かれる。そのモノローグが少女漫画には比較的多く使用されている。キャラクターたちの心理が分かるため、少女漫画は登場人物に感情移入がしやすくなっていると考えられる。また、モノローグ以外にも心情描写に欠かせないものが存在する。それは顔…その中でも最も重要なのが瞳である。少女漫画の目が大きいと感じたことがある人もいるだろう。その瞳の大きさは、登場人物たちの感情を分かりやすく表すために大きくなっていると考えられる。

今ジャンプで連載中の『ニセコイ』やサンデーで連載中である『神のみぞ知るセカイ』や知名度の高い『タッチ』などは、少年漫画ではあるが恋愛を中心に物語が進んでいる。このように少年漫画にも少女漫画的な要素を持つものも多く存在する。もちろん少女漫画の中にも少年漫画のようなものもある。男が主人公の漫画は『赤ちゃんと僕』、『っポイ!』、『NGライフ』など、多く存在する。その中でも、『しゃにむにGO』という漫画は男主人公であるうえに、テニスを中心としたスポ根漫画でもある。また『夏目友人帳』という少女漫画は、妖怪が見える少年が主人公の少し変わった雰囲気のある少女漫画である。『俺様ティーチャー』という少女漫画は、女の子が主人公であるが、恋愛漫画的要素よりもギャグ漫画的要素が強いと感じる。このように、男の人が読んでもおもしろいと思える少女漫画もある。少女漫画に男性読者が少ない理由の一つとして、漫画家が女性であるから、男の人には理解しにくい心理描写がある、ということを知ることがある。確かに、少女漫画家の多くは女性であり、男性漫画家の名を知ることがあまりないだろう。けれど、それは少女漫画の読者たちに漫画のイメージを壊さないためにペンネームなどによって隠されていることもあり、実際のところは分からない。ただ、マンガの神様と評されている手塚治虫が、『リボンの騎士』や『火の鳥』という少女漫画を描いているのは事実である。また、少年漫画で活躍する女性漫画家はたくさんいる。たとえば、『鋼の錬金術師』や『銀の匙』の作者である荒川弘、『らんま1/2』や『犬夜叉』の作者である高橋留美子、『結界師』の作者である田辺イエロウなどがあげられる。このように、少年漫画という分類される作品の中にも少女漫画のような作品はあり、そ

の逆も存在する。少女漫画と少年漫画の違いはいくつも取り上げたが、それはあくまで一般的なものであって、全てではない。少女漫画と少年漫画の境界線ははっきりとしていない。つまり、ひとくくりにしては少女漫画と少年漫画の違いは語れない。

男性が少女漫画を買い辛い理由は、少女漫画と少年漫画をはっきりと分類する人たちがいるからである。少女漫画は全て、男の読むべき漫画ではない、男が読んでもおもしろい物ではない、と決め付けてしまっている人がいると考える。そのような人たちの目が怖くて、少女漫画に興味関心を持つ男の人が、少女漫画を買い辛いと思うのは仕方が無いことである。そのような環境を作る周りの人たちの偏見による少女漫画に対する差別がよくない。中身も読まずに少女漫画、という肩書きだけで避ける人には、中身を知ってから判断してほしいと訴えかけたい。これは何事においても言えることである。物事の本質を知る前から否定的に決め付けて、関わらないようにすることは好ましくない。中身を知ってみれば、案外自分に合ったものかもしれない。多くの男の人でも気軽に少女漫画を手にすることができるような、偏見のない世界になってほしいと私は主張する。(3458字)

使用文献

全国出版協会・出版科学研究所(2007)「2007出版指標年報」

池上賢(2009)「『週間少年ジャンプ』という時代経験」

押山美智子(2007)「少女マンガジェンダー表象論」

飯沢耕太郎(2009)「戦後民主主義と少女マンガ」

斉藤次郎(1995)「『少年ジャンプ』の時代」

馬居政幸(1993)「なぜ子どもは『少年ジャンプ』が好きなのか」

青木幸子・『フルバ』解析委員会(2001)「フルーツバスケット 恋愛心理分析書」